

## 河野直践教授 経歴

1961 (昭和36) 年 4 月	東京に生まれる
1974 (昭和49) 年 3 月	東京都港区立高輪台小学校卒業
1977 (昭和52) 年 3 月	私立武蔵中学校卒業
1980 (昭和55) 年 3 月	私立武蔵高等学校卒業
1980 (昭和55) 年 4 月	東京大学文科 I 類入学
1985 (昭和60) 年 3 月	東京大学法学部 (公法コース) 卒業
1985 (昭和60) 年 4 月	全国農業協同組合中央会入会 (営農部, 広報部等に勤務)
1991 (平成 3) 年 3 月	同上より(財)協同組合経営研究所に派遣。研究員として調査研究に従事 (~1998年 9 月)
1992 (平成 4) 年 4 月	東京大学大学院農学系研究科 (農業経済学専攻) 修士課程入学
1994 (平成 6) 年 3 月	同上終了。修士 (農学)
1994 (平成 6) 年 4 月	東京大学大学院農学生命科学研究科 (農業経済学専攻) 博士課程入学 中央協同組合理学園非常勤講師 (~1999年 3 月)
1997 (平成 9) 年 3 月	東京大学大学院農学生命科学研究科 (農業・資源経済学専攻) 博士課程 修了。博士 (農学)
1997 (平成 9) 年 4 月	埼玉大学経済学部非常勤講師 (~1999年 3 月) 駿河台大学経済学部非常勤講師 (~1999年 3 月)
1998 (平成10) 年10月	茨城大学人文学部助教授
2004 (平成16) 年 1 月	同上教授
2011 (平成23) 年 8 月	逝去

## 河野直践教授 業績

### 【著書】

- (1) (共著)『有機農業—農協の取り組み—』家の光協会, 1988年12月。
- (2) 『協同組合の時代—近未来の選択』日本経済評論社, 1994年9月。JA 研究賞 (1995年), 福武直賞 (1997年), 日本協同組合学会奨励賞 (1997年) を受賞。
- (3) 『産消混合型協同組合—消費者と農業の新しい関係』日本経済評論社, 1998年7月。
- (4) 『食・農・環境の経済学』七つ森書館, 2005年。
- (5) (編著)『協同組合入門～その仕組み・取り組み～』創森社, 2006年。
- (6) (監修)『新 協同組合とは (改訂版) そのあゆみとしくみ』協同組合経営研究所, 2007年1月。
- (7) 『新協同活動の時代』家の光協会, 2007年。
- (8) (共著)『農協法とJAの課題』改訂版, 日本経営協会, 2008年。※
- (9) 『人間復権の食・農・協同』創森社, 2009年。

### 【学術論文】

- (1) 『『協同のしくみ』を現代にいかす (連載)』『協同組合経営研究月報』第470-474・476-477・479号, 協同組合研究所, 1992年11月-93年3・5・6・8月。
- (2) 「現代若者たちからみた『協同組合』」『協同組合奨励研究報告』第19輯, 全国農業協同組合中央会, 1993年12月。
- (3) 「協同組合の現代的意義と可能性に関する研究—本質論の再考をとおして」, 東京大学大学院修士論文, 1993年度。
- (4) 「農協の将来—“都市農村交流”からみた“近未来の選択”」『農村と都市をむすぶ』第521号, 全農林労働組合, 1994年12月。
- (5) 「都市農村交流の現在」『協同組合経営研究月報』第489-491・493-496号, 協同組合経営研究所, 1994年6月-95年1月。
- (6) 「産消混合型協同組織の動向と今日的意義」『協同組合経営研究月報』509-511号, 協同組合経営研究所, 1996年2-4月。
- (7) 「一般協同組合問題の歴史とその今日的意義」『協同組合研究』第16巻第1号, 日本協同組合学会, 1996年9月。
- (8) 『『大地グループ』と『山武郡市農協睦岡園芸部有機部会』の提携について』『協同組合経営研究月報』第512・513号, 協同組合経営研究所, 1996年5・6月。
- (9) 『『みどりの風協同組合』と『混合型協同組合』の諸類型』『協同組合経営研究月報』第514号, 協同組合経営研究所, 1996年7月。
- (10) 「グリーンコープくまもと共生社の産直活動と阿蘇グリーンストック運動」『協同組合経営研究月報』第515・516号, 協同組合経営研究所, 1996年8・9月。
- (11) 「現代日本農業における『産消混合型協同組合』問題」, 東京大学大学院博士論文, 1996年度。
- (12) 「現代日本農業論・協同組合論における『産消混合型協同組合』問題—鈴木博『地域協同組合論』の先にあるもの—」『長崎県立大学論集』第30巻第4号, 1997年3月。

- (13) 「産消協同型の農法展開—『プロシューマー』の時代を迎えて」『ロバート・オウエン協会年報』24号, ロバート・オウエン協会, 2000年3月。
- (14) 「地域農業振興と環境政策」『21世紀の茨城農業・農村振興プロジェクト調査研究報告書』(茨城大学教育改善推進経費報告書), 2001年3月。
- (15) 「原子力災害と食料・農業問題—『共存路線』の困難をめぐる一考察—」『茨城大学地域総合研究所年報』第34号, 2001年3月。
- (16) 「農業者による原発反対運動の展開と地域農業振興の足跡—高知県窪川町と宮崎県串間市の事例から—」『茨城大学地域総合研究所年報』第35号, 2002年3月。
- (17) 「地域農業論からみた『東海臨界事故』の論点と考察」『東海村臨界事故と地域社会』茨城大学地域総合研究所, 2002年3月。
- (18) 「原子力施設の立地と地域農業—統計と事例が語る『負の相関』—」『茨城大学政経学会雑誌』第72号, 2002年3月。
- (19) 「農協による都市農村交流活動の現段階—3つの事例をもとに—」『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』第36号, 2002年3月。
- (20) 「協同組合運動と産直活動」梶潟俊子・松村和則編『食・農・からだの社会学』新曜社, 2002年11月。
- (21) 「『SAVE 芦浜基金』活動の研究」『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』第38号, 2003年3月。
- (22) 「協同組合と社会経済システム—資源・環境問題の視点から」田畑稔他編『アソシエーション革命へ』社会評論社, 2003年3月。
- (23) 「電力事業改革と経済民主主義—住民運動の発掘を中心に—」『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』第39号, 2003年9月。
- (24) 「原子力施設の立地問題と地域農業・農村振興の課題」茨城大学地域総合研究所『東海村原子力防災対策と地域社会』2005年3月。
- (25) 「日本の農業政策と『産消混合型協同組合』問題」『協同組合研究』第25巻第1号, 日本協同組合学会, 2006年6月。
- (26) 「農業経済論・協同組合論からみた原発問題—反対運動と電力事業の主体論を中心に—」『えんとろびい』第60号, エントロピー学会, 2007年7月。
- (27) 「『半日農業論』の研究—その系譜と現段階」『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』第45号, 2008年3月。
- (28) 「農業再建と協同組合運動」『季報唯物論研究』第105号, 季報『唯物論研究』刊行会, 2008年8月。
- (29) 「『農』と『食』の博物館・資料館管見」『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』第47号, 2009年3月。
- (30) 「『JCO 事故』からの10年間—反原発市民運動の軌跡—」『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』第50号, 2010年9月。
- (31) 「農協における教育活動の現状と課題—協同組合の基礎教育をめぐって」『茨城大学人文学部紀要・社会科学論集』第52号, 2011年9月。

#### 【学術論文以外】

- (1) 『高木仁三郎講演記録「いま、普段着の科学者として考えること」—専門に進む皆さんへのメッセージ—』オルターナティブを考える会, 1981年10月10日。

- (2) 「岡山・広島県 中国台地の水車」『水車むら通信』No.11, 1982年5月17日。
- (3) 「山谷労働者の自立に向けた伊豆“自給農園”の建設に水車むら各位の協力を！」『水車むら通信』No.23, 1983年11月30日。
- (4) (共著) エコロジーを考える会・東大「年表・人のくらしとエントロピー」『エントロピー学会第1回シンポジウム エントロピー読本』別冊経済セミナー, 日本評論社, 1984年5月。
- (5) (共著) 『新潟県佐渡郡畑野町・新穂村調査報告』No.1～3, 農林中央金庫調査部研究センター, 1984年7～8月。
- (6) (共著) 『農協組合員後継者問題に関する実態調査・石川県小松市農協の事例』(財)農村金融研究会, 1984年11月。※
- (7) 『農協組合員後継者問題に関する実態調査—実態把握と手がかりを求めて—(千葉県西船橋農協の事例)』調査資料No.121, (財)農村金融研究会, 1984年12月。
- (8) 「久し振りの東京映画会」『水車むら通信』No.31, 1985年1月19日。
- (9) 「方法論としての規模・組織論的アプローチ」『えんとろびい』第3号, エントロピー学会, 1985年2月。
- (10) 「編集にあたって」「夢を食らった喜一さん」『水車むら通信』別冊中山喜一翁追悼, 1985年4月28日。
- (11) (共著) 『熱塩加納村農協の農産物自給運動と有機農業運動についての調査資料』農林中央金庫調査部研究センター, 1985年7月。
- (12) 「生きている役牛利用」『土と健康』第14巻第8号, 日本有機農業研究会, 1985年8月。
- (13) 「夢を食らった喜一さん」『水土を生きる—(故)中山喜一翁追悼文集—』水車むら会議, 1986年3月。
- (14) 「地域社会に生きる農協とは」『エコロジーとエントロピー』別冊経セミ・エントロピー読本III, 日本評論社, 1986年4月。
- (15) 「今こそ原発の全面廃絶を—原発事故がもたらすものは—」『土と健康』第15巻第9号, 日本有機農業研究会, 1986年9月。
- (16) 「恐るべき放射能汚染—原発が農業にもたらすものは—」『農業協同組合経営実務』第41巻第10号, 全国協同出版, 1986年9月。
- (17) 「チェルノブイリ事故その後 反原子力のねばり強い運動を 上・中・下」『土と健康』第16巻第8・9・10号, 日本有機農業研究会, 1987年8・9・10月。
- (18) 『こわいこわい原発のはなし』水車むら会議企画局, 1987年10月。
- (19) (共著) 『フランス・西ドイツの最近の農業事情』全国農業協同組合中央会, 1988年3月。
- (20) 『こわいこわい原発のはなし 改訂版』水車むら会議企画局, 1988年4月。
- (21) (共著) 『農協と有機農業』(株)農林中金研究センター, 1988年9月。※
- (22) 「関係機関の連携で山間地に集落営農を徹底—京都府和知町農協・角農家組合—」梶井功監修『営農指導と地域・農業振興』全国農業協同組合中央会, 1988年8月。
- (23) 「コスト低減・農用地高度利用と農協」『農業信用保証保険』第138号, 農林漁業信用基金, 1988年9月。
- (24) 「〈解説〉『脱原発法』とは?」『水車むら通信』No.56, 1988年12月1日。
- (25) 「自著紹介『有機農業』」『土と健康』第18巻第1号, 日本有機農業研究会, 1989年1月。
- (26) 書評「D. ピメンテル・C.W. ホール編『グリーンの地球クリーンな資源』」『農林統計調査』第454号, 1989年1月。

- (27) 「原発10のおはなし」改訂版, 1989年4月。
- (28) 「原発 最新事情」『水車むら通信』No.64, 1990年5月16日。
- (29) 「諸悪の根源・近代法廃棄の運動を」『えんとろびい』第19号, エントロピー学会, 1990年9月。
- (30) 「初級講座 農協と上手に付き合う」『田舎暮らしの本』別冊宝島, 1991年。
- (31) 「環境問題と農協」食糧問題国民会議編『国民の食糧白書90・環境破壊と農業の復権』亜紀書房, 1991年3月。
- (32) 「新しい協同組合論を」『協同組合経営研究月報』第455号, 協同組合経営研究所, 1991年8月。
- (33) 「野菜の“ボックス産直”から学ぶこと」『協同組合経営研究月報』第456号, 協働組合経営研究所, 1991年9月(『協同組合間提携の理論と実践』全国協同出版, 1992年12月に所収)。
- (34) 「環境問題と経済学, 法学, そして協同組合」『協同組合経営研究月報』第458号, 協同組合経営研究所, 1991年11月。
- (35) 「百家争鳴の農業論争・その完全見取図」『別冊宝島 都市住民のための決定版農業大論争!』145号, 宝島社, 1991年12月。
- (36) 「あらためて考えたい協同組合教育の意義」『協同組合経営研究月報』第459号, 協同組合経営研究所, 1991年12月。
- (37) 「講演 協同組合の基本的価値と日本の生協運動」『大阪府生協'91「政治・経済問題」研修会報告集』'92会報別冊, 大阪府生活協同組合連合会。
- (38) 「都市生活者にとって農業問題とは何か」『月刊社会党』第438号, 日本社会党中央本部機関紙局, 1992年3月。
- (39) 「協同組合教育の内実を問う」『協同組合経営研究月報』第464号, 協同組合経営研究所, 1992年5月。
- (40) (共著)「海をまもり, ガザミを増やす」『協同組合経営研究月報』第465号, 協同組合経営研究所, 1992年6月。
- (41) (共著) 宇井純他監修『地球環境の事典』三省堂, 1992年9月。
- (42) 「環境問題と協同組合—ICA大会を終えて」『全国農業新聞』1992年11月20日。
- (43) 「現実を越えるには・協同のしくみが未来をひらく」『季刊 the 座』第22号, こまつ座, 1992年11月。
- (44) 「21世紀を展望する協同組合運動」『農村と都市をむすぶ』第498号, 全農林労働組合, 1993年1月。
- (45) シンポジウム「おしゃべりタイム」『第9回まちづくりシンポジウム 800人で語る農とのつきあいかた』鎌倉市市長室文化振興課, 1993年3月。
- (46) 「農協の『地域社会対応』—『食』と『農』, そして『環境』を守るネットワークを」『協同組合経営研究月報』第475号, 協同組合経営研究所, 1993年4月。
- (47) 書評「荷見武敬・根岸久子著『学校給食を考える』」『土と健康』第22巻第6号, 日本有機農業研究会, 1993年6月。
- (48) (共著)『JA あづみ21世紀対応』調査診断報告書(社)JA 長野開発機構, 1993年7月, 223頁中の事項分担執筆。
- (49) 「求められる“生協らしさ”の新戦略」『協同組合経営研究月報』第478号, 協同組合経営研究所, 1993年7月。
- (50) 「協同組合間提携を考える」『農業協同組合新聞』1993年10月12日。
- (51) 「“生活者”からみた農業問題」『窓17・文明としての農業』窓社, 1993年10月。
- (52) 書評「白井太衛著『水車むらへようこそ』」『土と健康』第22巻第3号, 日本有機農業研究会,

1994年3月。

- (53) 「協同組合の新しい動きについて」『自主福祉活動の新たな活動領域に関する調査研究』生活福祉研究機構, 1995年。
- (54) (共著)『都市農村交流・姉妹JAの展開方策』全国農業協同組合中央会, 1995年2月。
- (55) (共著)『群馬県川場村と東京都世田谷区の“縁組”』の記事をめぐって『協同組合経営研究月報』第497号, 協同組合経営研究所, 1995年2月。
- (56) 「社会経済システムと協同組合の可能性」『えんとろびい』第33号, エントロピー学会, 1995年6月。
- (57) 「環境を守り育てる“よい仕事”—『食』と『農』にとりくむ労働者協同組合」『協同組合経営研究月報』第502号, 協同組合経営研究所, 1995年7月。
- (58) 「新しい協同の動きに何を学ぶか」『月刊JA』第487号, 全国農業協同組合中央会, 1995年9月。
- (59) 「滞在型クラインガルテンの取組み—長野県四賀村の事例について」『協同組合経営研究月報』第505号, 協同組合経営研究所, 1995年10月。
- (60) 「高知県檜原町の『千枚田オーナー』制度」『協同組合経営研究月報』第507号, 協同組合経営研究所, 1995年12月。
- (61) (編集協力)『日本農業年鑑』1996年版, 家の光協会, 1995年12月。
- (62) 『JAを軸とする都市農村交流ネットワークの形成・推進に向けて』全国農業協同組合中央会, 1996年2月。
- (63) 「定年退職者営農の展開—兵庫県香寺町・行重営農組合」『協同組合経営研究月報』第511号, 協同組合経営研究所, 1996年4月。
- (64) 「ひろがる『元気な高齢者』の協同活動」『協同組合経営研究月報』第522号, 協同組合経営研究所, 1997年3月。
- (65) 「准組合員・地域組合化はどこへいってしまったのか—改正農協法の論点をこう考える」『協同組合経営研究月報』第523号, 協同組合経営研究所, 1997年4月。
- (66) 「新しい協同活動の展開をどうみるか」『協同組合経営研究月報』第524号, 協同組合経営研究所, 1997年5月。
- (67) (共著)「過疎化・高齢化のなかで四半世紀を歩む—美鹿農協・日原老人部」『協同組合経営研究月報』第524号, 協同組合経営研究所, 1997年5月。
- (68) 「農業分野での複合型(混合型)協同組合について」『協同の発見』第62号, 協同総合研究所, 1997年6月。
- (69) (共著)『自発性を生かしたJAの『元気な高齢者』組織づくり戦略』全国農業協同組合中央会, 1997年6月。
- (70) 「農協の営農指導」農業協同組合制度史編纂委員会編『新・農業協同組合制度史 第3巻』協同組合経営研究所, 1997年6月, 第2章第4節。
- (71) 「私が『産消混合型協同組合』にこだわる理由」『生活協同組合研究』第260号, 生協総合研究所, 1997年9月。
- (72) 「新設講義『市民活動と法』(埼玉大学)担当記」『協同組合経営研究月報』第529号, 協同組合経営研究所, 1997年10月。
- (73) 「現実を超えるには—協同の仕組みの再建が未来をひらく」井上ひさし・こまつ座編『井上ひさしの農業講座』家の光協会, 1997年11月。
- (74) 『『地域に映画館を』の願いを実現—みやこ映画生協の誕生』『協同組合経営研究月報』第538号,

協同組合経営研究所，1998年7月。

- (75) 「自著紹介『産消混合型協同組合』『水車むら通信』No.84, 1998年7月20日。
- (76) (共著)『農村移住・定住の実現をはかり得る魅力ある地域づくりに向けて』全国農業協同組合中央会，1998年8月，17-35頁を執筆。
- (77) 「森林づくりに取り組むIターン青年たち」『協同組合経営研究月報』第545号，協同組合経営研究所，1999年2月。
- (78) 「故・大塚勝夫会員を悼む」『水車むら通信』No.87, 1999年7月28日。
- (79) (共著)『兵庫県摂津地区広域合併JA 営農事業コンサルティング報告書』(財)協同組合経営研究所，1999年8月，29-41頁と監修を担当。
- (80) (共著)「広域合併農協における営農事業のありかた—兵庫県摂津地区のコンサルタント報告書から—」『協同組合経営研究月報』第554号，協同組合経営研究所，1999年11月。
- (81) 「原子力と農業は共存できない—東海臨界事故を批判する」『土と健康』第27巻第11号，日本有機農業研究会，1999年12月。『水車むら通信』No.88, 1999年12月25日に転載。
- (82) 「『食料・農業・農村基本法』への疑問」『協同組合経営研究月報』第556号，協同組合経営研究所，2000年1月。
- (83) 「教養教育古今東西—東海村臨界事故と教養—」『ローザ・プルムラ』No.15，茨城大学・大学教育研究開発センター，2000年1月。
- (84) 「農協改革はどうあるべきか」『農業共済新聞』(3回連載)，2000年8月23・30日，9月6日。
- (85) 「『弔いつづき』の2000年」『水車むら通信』No.91, 2000年11月25日。
- (86) 「持続可能な社会と地域における市民活動」茨城の水環境編集委員会(茨城大学)編『茨城の水環境』文眞堂，2000年12月。
- (87) 書評「三国英実編著『地域づくりと農協改革』」『協同組合研究』第20巻第2号，日本協同組合学会，2000年12月。
- (88) (座談会)「21世紀の協同組合像を語る」『社会運動』市民セクター政策機構, Vol. 250, 2001年1月。
- (89) 「JCO 事故1周年の教訓」『いばらきの地域と自治・第7集』自治体研究社，2001年3月。
- (90) (共著)「『東海村臨界事故に関するアンケート』単純集計結果」『茨城大学地域総合研究所年報』第34号，2001年3月。
- (91) 「これからの大学生協の役割」『Univ.CO-OP』全国大学生協同組合連合会，2001年6月。※
- (92) 「地域生協を母体にしたワーカーズの活動事例」『協同組合経営研究月報』第574号，協同組合経営研究所，2001年7月。
- (93) (共著)『JA 女性組織の活性化と農村女性ワーカーズ育成の方向』全国農業協同組合中央会，2001年8月，1-42頁と監修を担当。
- (94) 「『元気』のための3つの条件」『農業協同組合経営実務』第57巻第10号，農業協同組合研究会，2002年。
- (95) 「“普段着の科学者”に近づくこと」『高木仁三郎著作集 第7巻 月報3 市民科学通信』七つ森書館，2002年3月。
- (96) (共著)「資料調査『東海村臨界事故に関するアンケート』単純集計結果(東海村臨界事故と地域社会)」『茨城大学地域総合研究所年報』別冊，2002年3月。
- (97) (共著)『地域社会の将来とJAのあり方』(財)協同組合経営研究所，2002年7月，27-44・99-106頁を担当。

- (98) 「協同組合を活性化するには—市民運動の経験から」『協同組合経営研究月報』第589号, 協同組合経営研究所, 2002年10月。
- (99) 「重大な岐路に立つJA」『農業協同組合新聞』2002年10月12日。
- (100) (共著)『JA 共済の事業基盤に関する調査研究報告書』全国共済農業協同組合連合会, 2003年4月。
- (101) 「食と農のあり方と農協改革・コメント」日本協同組合学会, 2003年5月。
- (102) 「協同組合原則からみた大学生協」『大学生協論研究会答申 21世紀の大学生協の革新』全国大学生活協同組合連合会, 2003年11月。
- (103) (共著)『農協法とJAの課題』日本経営協会, 2003年。
- (104) 「食農随想12『おまけ』のはなし」『地上』第59巻第4号, 家の光協会, 2005年4月。
- (105) 「協同とJA」『地上』家の光協会 (15回連載), 2003年10月~2005年4月。
- (106) 「『ホンネ』のはなし・『こわい』はなし」『水車むら通信』No.101, 2005年5月5日。
- (107) 「論点5 JAの生活活動と事業の展開方向」『農業と経済』第71巻第7号, 昭和堂, 2005年7月。
- (108) 「未来を開く鍵」『はんげんぱつ新聞』第330号, 反原発運動全国連絡会, 2005年9月20日。
- (109) 「協同活動新時代—農と食のルネッサンス 生産者と消費者で農地を生かす」『地上』第59巻第11号, 家の光協会, 2005年11月。
- (110) 「自著紹介『食・農・環境の経済学』」『水車むら通信』No.102, 2005年12月5日。
- (111) 「協同活動新時代—農と食のルネッサンス おおつ, 有機農業の専門農協」『地上』第59巻第12号, 家の光協会, 2005年12月。
- (112) 「協同活動新時代—農と食のルネッサンス 直売所のなかに、『未来』を見つけた」『地上』第60巻第1号, 家の光協会, 2006年1月。
- (113) 「共済理論研究会報告『食と農』と新しい協同組合—産消混合型協同組合問題」『共済と保険』第48巻第2号, 共済保険研究会, 2006年2月。
- (114) 「論壇・協同組合」『日本農業新聞』2006年5月28日。
- (115) 「協同活動新時代 Part 2—地域と生活のルネッサンス 若者だって『協同』したい!」『地上』第60巻第5号, 家の光協会, 2006年5月。
- (116) 「協同活動新時代 Part 2—地域と生活のルネッサンス ハッスル高齢者の“協同力”に要注目!」『地上』第60巻第6号, 家の光協会, 2006年6月。
- (117) 「協同活動新時代 Part 2—地域と生活のルネッサンス あるある!“協同”巧者のまちが」『地上』第60巻第7号, 家の光協会, 2006年7月。
- (118) 「協同活動新時代 Part 3—自給カルネッサンス 消費者を農業に引っぱり込んじゃえ」『地上』第60巻第10号, 家の光協会, 2006年10月。
- (119) 「協同活動新時代 Part 3—自給カルネッサンス どこだって地産地消はできちゃう」『地上』第60巻第11号, 家の光協会, 2006年11月。
- (120) 「協同活動新時代 Part 3—自給カルネッサンス 国産サポーターここにあり!」『地上』第60巻第12号, 家の光協会, 2006年12月。
- (121) 「基調講義 協同組合の原点と将来を考える」『にじ』第617号, 協同組合経営研究所, 2007年。
- (122) 「書評・『農協に明日はあるか』(先崎千尋著)」『茨城新聞』2007年2月18日。
- (123) 「自著を語る『新協同活動の時代』」『JA教育文化』第80号, 家の光協会, 2007年5月。
- (124) 「自著を語る『協同組合入門』『新協同活動の時代』」『文化連情報』第351号, 日本文化厚生農業協同組合連合会, 2007年6月。『水車むら通信』No.109, 2007年11月5日に転載。



- (125) 「自著紹介『協同組合入門』」『土と健康』第35巻第4号, 日本有機農業研究会, 2007年6月。
- (126) 「協同組合運動への提言」『ひょうごJJC』第67号, 兵庫JCC, 2007年9月。
- (127) 「『いのちの叫び』へのこだわり」『共済と保険』第49巻第10号, 共済保険研究会, 2007年10月。
- (128) 「原子力施設の立地と農林漁業—『いのち』の視点を取り戻すために—」『原子力資料情報室通信』第400号, 原子力資料情報室, 2007年10月。
- (129) 「今、なぜJAの地域社会貢献活動なのか」『JAにおける地域社会貢献活動の取り組みについて』JA兵庫中央会, 2007年11月。
- (130) 「書評・小貫雅男・伊藤恵子著『菜園家族物語』」『えんとろぴい』第61号, エントロピー学会, 2007年11月。
- (131) 「今なぜJAの地域社会貢献活動なのか」『協同』第1214号, 兵庫県農協中央会, 2007年12月。\*
- (132) 「農協の地域社会貢献と地産地消」『農業と経済』第74巻第9号, 昭和堂, 2008年8月。
- (133) 「『年史』を今日に生かそう」『共済と保険』第50巻第9号, 共済保険研究会, 2008年9月。
- (134) 「座長問題提起(日本協同組合学会第27回春季研究大会報告(上)協同組合のメンバーシップをめぐる諸問題)」『共済と保険』第50巻第9号, 共済保険研究会, 2008年9月。
- (135) (座談会)「農林漁業を活性化し, 地域の力で原子力施設をなくしていこう。」『はんげんぱつ新聞』第370号, 反原発運動全国連絡会, 2009年1月20日。
- (136) 「JA環境保全活動の取り組み方向」『JAグループの環境保全活動をすすめるために』JA全中, 2009年2月。
- (137) 「座長解題(特集 協同組合のメンバーシップをめぐる諸問題 日本協同組合学会 第27回春季研究大会シンポジウム)」『協同組合研究』第27巻第3号, 日本協同組合学会, 2009年6月。
- (138) 「一般討論・座長まとめ(特集 協同組合のメンバーシップをめぐる諸問題 日本協同組合学会 第27回春季研究大会シンポジウム)」『協同組合研究』第27巻第3号, 日本協同組合学会, 2009年6月。
- (139) 「地域に根ざす」『共済と保険』第51巻第7号, 共済保険研究会, 2009年7月。
- (140) 「映画紹介—『こつなぎ』」『土と健康』第37巻第6号, 日本有機農業研究会, 2009年8月。
- (141) 「『3つの危機』下における協同組合の役割と課題」『月刊JA』第55巻第11号, 全国農業協同組合中央会, 2009年11月。
- (142) 「自著紹介『人間復権の食・農・協同』」『土と健康』第37巻第9号, 日本有機農業研究会, 2009年12月。『水車むら通信』No.116, 2010年5月1日に転載。
- (143) 「『下取り体験』あれこれ」『共済と保険』第52巻第10号, 共済保険研究会, 2010年10月。
- (144) 「人間復権と大学教育・協同組合運動」『地域農業と農協』第40巻第4号, 農業開発研修センター, 2011年3月。
- (145) 「原発から15km地点で暮らすということ」『水車むら通信』No.120, 2011年7月28日。
- (146) 「遺稿 自然環境保全とエネルギー問題に果たす協同組合の社会的役割」『協同組合研究』第30巻第3号, 日本協同組合学会, 2011年8月。
- (147) 「コメントへの回答(特集 協同組合の社会的価値を問う—国際協同組合年と協同組合憲章 日本協同組合学会 第30回春季研究大会シンポジウム)」『協同組合研究』第30巻第3号, 日本協同組合学会, 2011年8月。
- (148) 「脱原発なくして農林漁業の復興はありえない」『農村と都市をむすぶ』第61巻第9号, 全農林労働組合, 2011年9月。

- (149) 「協同組合が果たしている社会的役割：自然環境保全とエネルギー問題」『共済と保険』第53巻第11号，共済保険研究会，2011年11月。※

以上の経歴と業績目録は，教授昇進審査の際にご本人が作成された書類をもとに，追悼号編集委員会において，教授昇進後に関して，追記・修正を施したものである。

末尾に※を記したものは，編集委員会において現物を確認できていないものである。